

田中拉致問題担当大臣記者会見要旨

【拉致問題関連部分抜粋】

(平成24年10月1日(月) 20:38~20:47 於:官邸記者会見室)

1. 発言要旨

この度、野田改造内閣における法務大臣及び拉致担当大臣に就任いたしました田中慶秋であります。法務省は、御案内のように法の下に国民は全て平等であるという立場と、国民が安心して暮らせる世の中を作るという役割があります。もう一つは、やはり、多くの意識、社会のニーズに沿った形の中での取組ということが必要であるといわれております。また、拉致問題等については、皆さんも御承知のように、北朝鮮の拉致問題は、まさしく人権侵害であり、国家主権の重大な侵害であるという立場に立って、私は昭和58年から拉致問題をそれぞれ勉強させていただいてきたところであります。その基本姿勢と同時に、やはり日朝関係は、拉致問題を解決しない限り基本的にはあり得ない、このように正常化に向けても考えております。また、御家族の皆様のことを考えたときに、一日も早くこの拉致問題の解決の糸口、そして実行あるものをこれから成し遂げていきたいという思いで取り組まさせていただいております。どうかまた、皆さん方の暖かい御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げたいと思っております。

2. 質疑応答

(問) 拉致問題についてお聞きします。総理からどういった御指示があったのでしょうか。大臣で、民主党政権7人目の拉致担当大臣となりますが、被害者御家族が今日、不満を述べられていたのですが、野田総理が拉致問題担当大臣というポスト自体を軽視しているのではないかという見方もあります。このポストに対する重要性について、大臣はどうお考えになるかということと、今、日朝協議が進行中で、前の松原大臣は強行派という見方もされていましたが、これから融和的な方策をとっていくのか、日朝協議に臨む姿勢について教えてください。

(答) 御家族のことを考えたり、また、総理は、拉致問題というものは、国家主権への重大な侵害であるという立場をとっておりますし、もう一つは、拉致問題はあってはならない、平和な世の中を作る意味でもこういう考え方です。私は、今回の大臣を拝命するに当たって、拉致問題を一日も早く解決すべく努力してほしい、こんなふうに御指示をいただきました。もう一つは、確かに私は、7人目の大臣かもしれませんが、組織というのは継続性があり、またそれをしっかりとその継続を実効あるものに作り上げていくことが必要であろう。あらゆる手段を使ってあらゆる情報を私は少なくとも集めて今回の拉致問題の解決に当たっていきたいと思っております。特に、経済の問題等々もありますけれども、この正常化というのは、私は、拉致問題の解決なくして日朝の正常化はあり得ない、こんな立場と取っていきたいと考えております。

(問) 制裁や経済措置等についてはいかがでしょうか。

(答) 私は、経済措置はあるべきであると思っております。しっかりとやらないと今回の拉致の糸口はつかめないであろうと思っております。制裁はあって然るべきであると思っております。これからもこの問題について、関係者の皆さんと話し合っていきたいと思っております。

す。

（問）初入閣の御感想と、党内の融和と一致結束を図れるかというところのお考えをお聞かせ下さい。

（答）私は、初めての大臣就任でありますけれども、真剣に取り組んでおりましたし、また、私は組織というものはしっかりまとまって初めて組織としての意味があると思っておりますから、今、御指摘をされたような形の中で、離党するようなことはないであろうと思っております。また、そのことをしっかりと話し合いをし、求めていかなければいけないと思っております。

（以 上）